



元気な

やさしい

かっくん・たえちゃん



年の初め みなさんに お願いします

2026年が始まりました。学校は3学期、新年度に向けていろいろなまとめの学期です。

さて、「学校だより」の12月号で、校内・校外でのトラブル発生時に、本校の教員がどのように子どもたちに指導しているのかをお知らせしました。その内容を簡単にまとめると次の通りです。



1. 発生した事実の把握に努める
2. 子どもの行動に潜む、理由や心情などを確認する
3. 問題の解決を図る
4. 保護者の方に連絡をする

このように取り組むのは、私たちが「アンコンシャス・バイアス (Unconscious Bias)」にとらわれないためです。「アンコンシャス・バイアス」とは、誰もが無意識に持っている「思い込み」や「偏見」のことです。例えば…

いつもまじめで、先生の言うことをよく聞き友だちが多いAさんと、日頃から他の子に嫌なことをよく言うBさんがけんかをしました。

Aさん「Bさんが、肩にパンチしてきました」

Bさん「Aさんが、自分に嫌なことを何回も言ってきたから、肩を手で押しただけです」

Aさん「Bさんが、自分にぶつかってきたから『痛い、やめて』と言っただけです」

Bさん「みんなに聞こえるような大きな声で言われて、その言い方が、すごく嫌だった」

上のような例では、もし指導する教員が「アンコンシャス・バイアス」にとらわれていたら、まじめなAさんの言うことを重視して、Bさんに「パンチはよくない」と指導することでしょう。その結果Bさんには「自分の言うことは誰も信じてくれない」「自分はだめなんだ」という感情が増幅されてしまいます。

実際にはこのけんかに至る原因、つまり、その時の状況を丁寧に確認するとともに、Bさんに対してAさんや周囲の子どもたちが普段から抱いている感情、さらにその学級全体の雰囲気をも勘案して、このけんかを指導することが重要です。

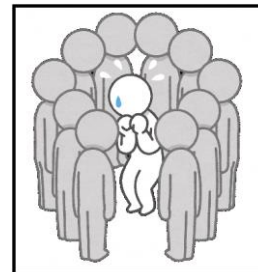
つまり、「アンコンシャス・バイアス」は、トラブルの発生時に公平な立場での指導の阻害要因となり、それに気づかないままだと、ハラスメントや大きな失敗をしてしまうのです。指導にあたっては「気づくこと」と「意識して行動を修正すること」が大切です。

ところで、みなさんはYouTubeやTikTokなどSNSでは似たような情報が流れてくる現象があることをご存じでしょうか。これは、主に「フィルターバブル(Filter Bubble)」と「エコーチェンバー(Echo Chamber)」と呼ばれていて、自分が求める、興味関心に合った情報が自動的に優先

的に選り出され、それを受け取るうちに、ユーザー同士が似た価値観でつながり、コミュニケーションが完結することを表しています。これは、人々が気づかないうちに行われています。

一方で、私たち自身もまた LINE のグループなどで同じことを発生させてしまっています。

例えば、上のようなけんかでも、このようすを見ていた C さんが帰宅後、保護者の方に「今日、B さんが A さんを殴って先生に怒られていた」（実際には、先生は A さん・B さんに対し公平に聞き取り、解決させていたのですが）と言ったとします。それを保護者が LINE のグループ内で「B が A さんに暴力をふるって先生に怒られていた」とあげ、他の保護者が「A さんがかわいそう」「B さんがいるからみんな困っている」「うちの子も何かされないか心配」などと呼応していきます。



この時に、「あれ、うちの子は、その場面、違うように言っていたけどなあ」と思っても、その意見を表すことは難しくなってしまいます。人と違う意見を言ったり、賛成しなかったりすると、そのグループ内での自分の立場が危うくなってしまおうと考えてしまうからです。これが「同調圧力」と呼ばれるものです。

もし、私たちおとなである教職員が、子どものことに関して

「アンコンシャス・バイアス」をもって接していたら、

「フィルターバブル」によって自分に都合の良い情報ばかりを集めていたら、

「エコーチェンバー」で価値観が偏った仲間どうしてコミュニケーションをとっていたら、

それは、子どもたちを健全に育成することに反するのではないだろうか、そんなことを考えることがあります。

片江小学校には、今、500 名以上の子どもたちが在籍しています。その中の一人一人の個性はみんな違っています。ただし、全員に共通していることがあります。それは一人一人が、人格の未完成な発展途上の子どもであるということです。

したがって、私たち教職員は、PBS（ポジティブ行動支援）を中心にして、子どもたちのよりよい行動を引き出し、評価、フィードバックしていくとともに、誤った行動に対してはどうすればよかったのかを丁寧に指導していきます。そして、子どもたち一人一人に寄り添いながら、未来社会の形成者を育てていこうと決意し、日々、教育活動に取り組んでいます。

『私と小鳥と鈴と』 金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします
敵意に満ちたなかで育った子は誰とでも戦います
ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります
ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような
気持ちになります
心が寛大ななかで育った子はがまん強くなります
励ましを受けて育った子は自信を持ちます
ほめられるなかで育った子はいつも感謝することを知ります
公明正大ななかで育った子は正義心を持ちます
思いやりのあるなかで育った子は信仰心を持ちます
人に認めてもらえるなかで育った子は自分を大事にします
仲間の愛の中で育った子は世界に愛を見つけます

出所：『アメリカインディアンの子供たち』新装版
を伸ばす魔法の 11 条

著：加藤諦三、ドロシー・ロー・ノルト／扶桑社

2026 年も保護者のみなさんのご理解とご協力、そして子どもたちへの温かい声かけをお願いいたします。

2026 年初頭

校長 中谷和博